（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0172000606		
法人名	社会福祉法人ノマド福祉会		
事業所名	グループホームはる （なのはなユニット）		
所在地	小樽市赤岩2丁目21番12号		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000606&SCD=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・東屋を活用しての地域との交流
・行事の開催で地域住民や入居者の楽しみに力を入れている。
・入居者全員の避難訓練や月1回自主点検の実施など防災に力を入れている。
・家族と共に過ごす行事活動
・入居者の方中心の婦人部の活動
・グループホームの理念をもとに、各自は入居者の方のことを理解し尊重することで、居心地良く安心した生活を送れるように日々支援を行っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成22年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、市郊外の広い敷地に立地し、2階建の瀟洒な建物で、中庭には花壇、菜園、いちご畑等があり、苗植えから収穫まで利用者の楽しみの一つになっている。リビングから続くテラスに椅子やテーブルを置き、暖かい日の日光浴やティータイム、焼き肉パーティ等に利用しており、眺望も良い。運営母体法人は多くの福祉サービス事業を展開しており、そこで培ったノウハウはサービスの質の向上と運営に活かしており、利用者主体で婦人部を立ち上げ活発に活動していたり、地域住民が気楽に立ち寄ることができる東屋を建設している。職員は笑顔と優しさで、利用者と共に過ごす時間を大切にしており、家族の信頼も厚い。近隣住民との交流も盛んで、利用者の町内会行事の参加や事業所の盆踊り、収穫祭、防災訓練にも近隣住民が参加し、保育園児の定期的な訪問もあり、地域と共に生活支援を実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念をもとに、ケアを実践している。玄関の掲示や会議などで理念を再認識している。	地域密着型サービスの意義を念頭に、事業所独自の理念をユニット入口の見やすいところに掲示している。カンファレンスや全体会議で、ケアサービスに反映されているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームでの行事（盆踊りなど）の時に、地域の呼びかけや実施。町内会の行事（日帰り温泉旅行）に参加している。また、東屋を活用して地域住民と関わり持っている。保育所の定期交流もある。	町内会に加入している。日帰り温泉や花植え等の町内会行事に参加し、事業所主催の盆踊りや焼き肉パーティには近隣の人達や生活支援ハウスの住民も参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて行うことは充分にできていないが、昨年度から導入している、ボランティアの方々には少しずつ浸透している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価及び外部評価の報告などをし、様々な改善点を話し合っている。昨年は、地域との交流に関して、入りやすい雰囲気作りとして、提案された東屋を建設している。	定期的に開催している運営推進会議には、家族代表、地域包括支援センター職員、地域住民代表等が出席している。会議では、行事予定と報告、地域との交流、防災計画等を話し合い、事業所の運営に効果を上げている。	議事録は見やすいところに掲出するか、利用者家族に送付する等の検討を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告、わからない事は確認するなど、連絡し、適宜アドバイスをしてもらっている。	行政担当者とは日ごろから連絡を取り、運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席し意見交換をしている。管理者は、市グループホーム連絡協議会の役員としてサービスの質の向上に取り組んでおり、市主催の研修会にも出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置、学習会の実施にて、話し合いをすることで身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。また、夜間（夜勤者１人）のみ、入居者安全のため鍵をかけている。それ以外は鍵をかけていない。	日中玄関は施錠せず、鍵をかけない暮らしを実践している。身体拘束廃止委員会を設置し、研修会や勉強会で話し合い、拘束のない自由な生活をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会や研修を通して学ぶことができており、会議にて他施設で起こった虐待について話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会などで学ぶ機会があるが、それを活用するほど、充分な理解はできてない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じて説明を行っている。自分で不十分な場合は管理者に報告し、上司が行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて家族の意見要望確認し、入居者の方の要望もカンファレンスで話し合いを行っている。運営推進委員会、第三者委員会など外部へ表せる機会を設けている。その内容を会議などで職員に伝えている。	家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見や要望を聞き、運営に反映するよう努力している。また、重要事項説明書には、事業所内苦情相談担当者、第三者委員、外部苦情受付機関を明記している。	家族や関係者が意見や要望等を表出しやすい工夫として、ユニット内に意見箱を設置することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のグループホーム会議などや個人面談をし、意見を把握し、可能な限り実現している。	月に1度全職員参加のグループホーム会議、年に1度の個人面談があり、職員の意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等を行い、個々の目標に向け支援している。また、介護職員処遇改善交付金事業を取り入れ、平成２１年１０月から支給している。今年度は、職員の昇格要件（キャリアパス）を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や職種別などを考え行っている。 法人内研修も経験年数別にて、毎月開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、小樽市のグループホーム協議会の役員をしており、微力ながらネットワークはできてきている。また、今年度は相互訪問研修に参加し、職員も他事業所との交流をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時に必要な情報を伝えながら、不安となっていることを聞き、信頼関係を築く第一歩としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時や入居するまでの間に、必要な情報を伝え、不安となっている部分を聞きながら、入居者とともにグループホームでの生活を理解してもらうよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問時に何が必要かを見極め、初回アセスメントを行っている。状況に応じて管理者、看護師の意見を聞き、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを見極めながら、家事などの役割で、共に生活をするという関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を連絡しながら、家族への思いを伝えている。それぞれの家族関係の違いを理解し、絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人・場所の関係が途切れないよう、必要に応じて、ドライブなどの外出を行っている。また、友人の方の訪問もある。	これまでの人や場所との関係が継続できる様に支援しており、友人や知人の訪問がある。また、馴染みの美容室利用や昔住んでいた土地を訪問する等、個別の外出支援もしている。利用者主体の婦人部があり、活発に活動している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、橋渡しを行い、孤立しないよう、支え合う関係が築けている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後などは見舞いに行き、入居者が不安にならないよう話しをしている。必要に応じて家族との関係を継続している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や意向を聞きたり、日常生活の中からくみ取り、カンファレンスで話し合い、その意向に沿えるよう努めている。	個々の思いや意向は、日常の様子や会話で把握するよう努めている。困難な場合は家族や関係者に相談し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の状況はｶﾙﾃにﾌｧｲﾙしてあり把握できている。また家族からの情報や本人との会話の中からも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のリズムに合わせた生活を把握し行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向確認しながら、必要な情報をもとにカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。	定期的な見直しは3ヶ月毎に行っている。身体の変化や本人や家族の要望を取り入れ、随時見直しを行っている。医師、看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など必要な記録をパソコンに入力し、職員で共有することができている。また気付いたことなどはカンファレンスで話し合うことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎり、その状況にあったニーズに柔軟な対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は、保育所のみであり充分にできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望に添って適切な医療を受けている。	利用者希望のかかりつけ医を受診している。協力病院医師による往診や通院は、随時行っている。また、病状に合わせた医療機関を受診できるように支援しており、事業所には看護師が勤務している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、普段の違いを看護師に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護師が中心に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで、できることを考え、本人にとってより良い方向となるよう家族と話し合い、カンファレンスや会議を行っている。	医療連携体制の下、重度化や終末期に向けた指針を作成し、説明している。利用開始時から関係者全員で今後の方針を話し合い、不安感を持たないように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会を行い、訓練している。また急変時のマニュアルもある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間の想定であるが入居者全員の避難訓練を実施し、その際、地域協力も得ている。夜間の訓練はグループホーム会議で話し合い、今後の実施を予定している。また緊急時マニュアルもある。	消防署協力の下、利用者や近隣住民参加で年2回避難訓練を実施している。さらに、月1度各ユニット代表者3名で防災自主点検をしている。火災報知機、火災通報装置、火災受信機、防火扉、スプリンクラーを設置している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するように心掛けているが、職員の思いが強く出て、薄れている時もみられる。今後も、言葉使いや声かけの工夫を意識して行っていく。	利用者のプライドや羞恥心を大切に、誇りを傷つけることがないよう、周囲に配慮しながら支援している。個人情報に関する書類は、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の力を見極め、意志を尊重した対応や自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定期的に行う必要のあるもの（入浴など）はあるが、できるかぎり希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった身だしなみ、外出時の化粧などで、お洒落を楽しむことができている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週一回のメニュー会議で入居者の好みを考え献立を作っている。また、盛り付けなどの準備、片づけも入居者の方と一緒に行っている。嗜好に配慮し、代替品も用意している。	利用者と共に調理、配膳、後片付け等を行っている。職員も同じ食卓に着き、会話を楽しみながらゆっくり食事ができるように支援しており、個々の嚥下状態に配慮した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況に応じた食事を提供ている。食べやすいようにカット、キザミ、水分のトロミをつけている。また1日の水分量は確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけ、見守りで口腔ケアを行っている。できるかぎりは自分で行ってもらい、不十分な方は必要に応じて介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導パット交換を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれないように、さりげなくトイレ誘導し、排泄の自立支援をしている。ユニットに4ヶ所あるトイレは使いやすく整備し、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の状況を確認し、必要に応じて下剤の服薬や追加を行っている。献立には食物繊維や十六雑穀を取り入れたり、飲用にオリゴ糖を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はある程度決まっているが、入居者の希望や都合、体調に合わせて変更している。	毎日入浴でき、利用者の希望や体調に合わせ、入浴できるように支援している。必要に応じ、清拭、シャワー浴、足浴もしている。ホットタオルは常時用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れが見られている時や体調不良時には昼間でも臥床を促している。夜間入眠までに時間を要する方もいるが声かけ、希望に添った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がﾌｧｲﾙしてあり用法用量が記載されているが、全ての薬の把握は難しいため、体調を確認する上である程度の知識や変更時等必要に応じ確認し、また服薬後の体調の観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じて、散歩や買い物、家事などの役割の他に、行事の挨拶をおこなったり柔軟な対応ができている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望では難しいが、事前に把握したり、状況に応じて買い物やドライブなどを行っている。ユニット企画ではボランティアの方の協力もある。	心身の活性化につながるよう、日常的に敷地内のテラスや東屋、近隣散策や買い物に出かけている。花見や外食等の行事外出も積極的に行い、地域での生活が体感できる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金も持つことの大切なを理解しており、管理できる方は所持し、買い物などで使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している方や携帯電話を所持している方もいる。最近は少なくなっているが家族と手紙のやりとりを行っている方もいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定時の室温湿度の確認、窓やカーテンの開閉、照明の調整で心地よい空間となるようにしている。また季節の花や飾り、入居者の作品や写真を掲示している。	玄関、リビング、食堂、キッチン、浴室、廊下等は広くゆったりとした造りになっており、温・湿度に気を配り、快適な居住空間をつくっている。リビングから続くテラスには椅子やテーブルを置き、日光浴やティータイム、焼き肉パーティに利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主に居間で団欒したり、居室で過ごしたりしている。また居間以外にも事務コーナーや玄関前の椅子で個別に過ごすこともできている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて家族の話をしており、馴染みの物、使い慣れた物をおき、居心地よく過ごすよう工夫している。	居室には自宅で使い慣れた家具や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心してくつろいで過ごせるよう配慮、工夫している。清掃も行き届き、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーや手すりを設けおり、安全に生活できるようになっている。必要に応じた表記を行うことで安心した生活を送ることができている。		